

# 令和4年度 学校法人福島県高等理容美容学院

## 学校評価関係者委員会報告書

学校関係者評価報告責任者：校長 佐藤 学

### 1 学校関係者評価委員等

- ・ 鈴木 光浩 卒業生（理容科）
- ・ 木下 博幸 卒業生（美容科）
- ・ 佐藤 学 学校法人福島県高等理容美容学院 校長
- ・ 山崎 信子 同 上 教務主任
- ・ 八巻 功寿 同 上 事務長
- ・ 青柳 朋美 同 上 主事（広報担当）
- ・

### 2 委員会の開催状況

開催期日等 令和4年6月13日（月） 13時30分～ 本校会議室

### 3 学校関係者評価委員会報告

#### ① 学校の教育目標

- ・ 教育基本法及び学校教育法に基づき、理容師、美容師育成施設として時代の流れを鑑み、実社会に対し得る人材育成を行うことを目標とする。
- ・ 地域社会における保健衛生の担い手である理容師、美容師として必要な能力を育成する。
- ・ 今、何をなすべきかを自ら考え、自ら行動できる人材を育成する。
- ・ 接客業を目指す上で、社会的秩序を守る以上の礼節の心を身につかせ、心から挨拶のできる人材を育成する。
- ・ 接客業において、必要不可欠である「奉仕・仁愛・感謝」の心を持つ人材を育成する。

#### ② 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・ 当学院の卒業生は、高度な知識と技術を修得していることの評価から就職活動はスムーズに行われている。県内外の理容・美容関係者と連携を密にし、就職希望者をフルサポートする。
- ・ 少人数教育において、経験豊かな教師が学生の一人一人の理解度に合わせ、きめ細かな指導を行い、実技を身に付けることや学力向上に繋げていく。
- ・ コロナ禍の中、高等教育の無償化や奨学金制度の充実など教育環境を整備に努めている。

#### (1) 教育理念・目標

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	④	3	2	1
2	学校における職業教育の特色は何か	4	③	2	1
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来像を抱いているか	④	3	2	1
4	学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

#### ① 課題

- ・学生に個人差があるものの、基本マナーは守れているので、引き続き順守するよう指導していきたい。
- ・就職してすぐに即戦力となるよう「あいさつ」や、「清掃徹底」などを指導していきたい。

#### ② 今後の改善方策

- ・「学校訪問」や「オープンスクール」に力を入れ、学院の魅力を業界・学校関係者等に広く情報提供していく。
- ・理容師、美容師としての必要な知識、技能や接客対応等を身に付けさせる。
- ・入学して1学期をメインにルーティンとなるようしっかりと指導、徹底していく。

#### ③ 特記事項

- ・理容師、美容師を目指す新卒者、社会人、修得者等を幅広く受け入れるための学科を開設しており、当学院において理容師、美容師として人材育成を行い、実社会で活躍を期待したい。

#### ④ 学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

(2) 学校運営

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	③	2	1
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	④	3	2	1
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
7	教育活動等に対する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 課題

- ・情報システム化等により業務の効率化をさらに図っていく。
- ・コロナ禍の中、生徒が感染した場合の休校等の対応をスムーズに行うこと。
- ・広報活動について、年間を通してむらなく直近の情報発信を提供できるようにしたい。
- ・SNS活用し生徒間との作品共有シェアも進めたい。

② 今後の改善方策

- ・広報等においてインターネットの活用化を進める。
- ・広報活動について、生徒の協力を得て全体で発信できるように意識していく。
- ・ズーム等も取り入れながらの就活に活用していく。

③ 特記事項

- ・学院内部の情報システムは整備されている。

④ 学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

## (3) 教育活動

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1			
1	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
5	関連分野の企業・関係施設等業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等がおこなわれているか	4	③	2	1
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターシップ、実技・実習等）が行われているか	4	③	2	1
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4	③	2	1
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	④	3	2	1
11	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
12	関連分野における業界等との連携において教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④	3	2	1

14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1
----	------------------------	---	---	---	---

① 課題

- ・コロナ禍の中、学年を越えての合同授業他が実施しにくい。
- ・実践的な内容が全体的に少ないので、もう少し増やしていけたらと思う。
- ・理容科、美容科の連携をさらに深める。
- ・コロナ禍の中で、各種大会の中止等が続いている。

② 今後の改善方策

- ・必要に応じ業務打合せ等による情報共有を行い、教育活動の充実を図りたい。
- ・各種大会の開催について、コロナの影響を考慮しながら検討していく。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

(4) 学習成果

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
1	就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
2	資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
3	退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

- ・就職ガイダンスが行われない中でのサロンピックアップには課題が大きい。  
(県外就職へのリスクを軽減させてあげたい)
- ・コロナ禍で県外にいる卒業生の活躍をナマの声で伝えられない。

② 今後の改善方策

- ・インターネットの活用により情報提供
- ・コロナ禍の中、必要に応じオンライン等で在校生に情報提供していく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員コメント

・特になし

(5) 学生支援

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
2	学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
6	学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
7	保護者と適切に連携している	④	3	2	1
8	卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1

① 課題

- ・退学者が入学時のモチベーションを保っていただけるよう指導していく。
- ・社会人が入学する前と入学後でイメージのギャップがあり、フォローしていく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・定期的に個別面談等をして、意識付けする。
- ・社会人の教育環境を整えしっかり伝えたい。
- ・生徒の習熟度に応じた各個別指導

③ 特記事項

- ・福島県の高等学校就学支援金の実施
- ・令和4年度から学生支援機構の給付型奨学生、福島県の授業料減免を実施

④ 学校関係者評価委員コメント

- ・委員から生徒が学生生活を送る上で、「生徒」の声を聞き、「保護者」「教師」との連携を密にすることが大切であるという発言があった。

(6) 教育環境

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
1	施設・設備は、教育上の必要に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備されているか	4	③	2	1
3	防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 課題

- ・コロナ禍での衛生管理、特に換気への取り組み等を忘れがちになる。

② 今後の改善方策

- ・CO2測定器（整備予定）の活用により、換気を毎時忘れず取り組む。
- ・引き続き、検温、手指消毒、黙食の徹底を指導する。また、密をさけるため、教室・実習室の配置に配慮し、コロナ感染拡大防止に引き続き努める。

③ 特記事項

- ・コロナ禍でもソーシャルディスタンスを保って活動できていた。
- ・オンライン授業関係設備について、令和3年度に整備されている。

④ 学校関係者評価委員コメント

- ・委員からコロナ対策として、オンライン授業の実施状況について質問があった。  
現在のところ、遠隔授業を実施しなくても授業に支障はない。  
なお、オンライン授業は通信制で活用できないか検討している。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
1	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1

2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
3	学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

- ・出願者数が減少傾向にある。
- ・オープンキャンパスに複数回参加者している生徒は、当学院に関心をもって参加しているか。
- ・コロナの影響により、学生募集活動が十分できない。
- ・オープンキャンパスの際の体験要項の見直しを図っていく。
- ・理容科の入学志希望者が特に少ない。

② 今後の改善方策

- ・オープンキャンパスの内容について、学院の良さ等を見学等を通して、参加者理解してもらう。
- ・学生募集活動について、時期、内容、を十分協議し、教職員はもちろんのこと、役員、同窓会、業界からの意見も踏まえ、学院全体で、関係学校や機関に対し情報発信をしていく。
- ・スムーズに動いているか随時チェックする。
- ・理容師の需要について、業界関係者等と情報交換をする。

③ 特記事項

- ・生徒募集に関し、高校への学校訪問、HP や広報紙、ユーチューブなどを活用し 情報提供に努めている。
- ・オープンキャンパスでは、学院をよく知ってもらうため毎回テーマを変えて開催している。

④ 今後の改善方策

- ・教育活動内容や学生募集関係については、学院に対する理解を深めてもらうためホームページや各種情報誌を通して広く情報提供している。
- ・学外向けに新たにパンフレットを作成
- ・学納金は、経費節減等に努め、できるだけ低く押さえている。

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

- ・委員から学生募集に関しいろいろと実施されていると思うが、中学校への訪問及び資料提供、中学校からの訪問要請への対応などは実施されているか。広く情報提供を行い学生募集に繋げてほしいという提案があった。

また、理容科学生の受け入れについて、社会人コースの情報提供なども含め、生徒数の増加を図るべきである。という提案があった。



(8) 財務

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	③	2	1
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4	③	2	1
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4	③	2	1

① 課題

- ・学生が少ないことが大きな課題、特に理容科の生徒が少ない。
- ・少子高齢化等により学生数が減少しており、それに応じた学院運営の見直しが必要

② 今後の改善方策

- ・広報活動の見直し、学校訪問等を積極的に行い、学生数の増加を図る。
- ・必要経費の検証し、経費節減や省エネ対策を行う。
- ・対費用効果の高い事業を実施する。

③ 特記事項

- ・会計関係各種帳票の作成については、会計事務所に依頼している。

④ 学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

(9) 法令等の遵守

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	③	2	1
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
4	自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

- ・自己評価による問題点等を検証する

② 今後の改善方策

- ・自己評価、外部評価の結果及び対策について、今後の学校運営等に役立てる。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 課題

- ・コロナ禍で地区の清掃ができていない、地区の学生との交流も中止などコロナ禍で地域との連携が難しい。

② 今後の改善方策

- ・今後、コロナの状況を見ながら地域貢献等を検討していきたい。

③ 特記事項

- ・献血活動に協力している。

④ 学校関係者評価委員コメント

- ・特になし

(11) その他

委員意見) 今回の評価項目の内容に関し、「適切」・「不適切」の判断について、難しい部分もあるとの意見があった。在校生や卒業生に対しアンケートを行い、その声を学校評価の参考としてもよいのではないかという提案があった。

#### 4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今回、各教職員が自己点検や自己評価により、課題等を再確認や共有できたことは、今後の取組みに反映できるものと思われる。

今後も、自己評価の継続、各委員の意見等を踏まえて教育活動や学校運営等の諸課題の解決に対応し、学校の教育目標である実社会に対し得る人材育成に向けて取り組みたい。